

職員のみなさんへ一言メッセージ（第85回）

4月も終わりになりますが、暖かい日と寒い日が交互に来て、気温が定まりません。職員のみなさまには、体調はいかがですか。私も11月11日の手術から5か月、みなさんに心配をおかけしましたが、何とか、体も慣れたのか、調子も上向いています。ご安心ください。

今、また、この7年間、殆ど昼間に家にいることがなかったため、家に風が入らずシロアリが入りました。この機会に家の水廻りりの改修（台所、風呂、洗面所）をしております。みなさんに4月一杯は、ご迷惑をお掛けするかと思いますが、悪しからずご了承をお願い申し上げます。

さて、家の改修には、大工、左官、電気工事、配管、ペンキ屋、内装屋さんなど様々な職種の方が、次から次に来られて仕事をして行かれます。この現場で働く技術者の腕で、いい仕事にも悪い仕事にもなります。

真和館では、どこにも負けない施設として、「質の高い入所者サービス」をめざしています。

そのために、職員のみなさんの姿勢として、「決められたことを真摯にやり遂げ、正しく継続できる職員」をめざしていただいています。これは、ある意味仕事をする上では、当然のことであり、職員として守るべき最低のラインであります。でも、実際は、なかなか難しいことであり、確り、意識して取り組み、努力をしなければ、守ることが出来ないことなのかもしれません。今年も改めて、この言葉の意味を噛みしめて、確りした仕事に取り組んで下さい。

また、改修（建設）の現場には、仕事の段取りをつけ、技術者や資材調達等を調整しながら仕事を進めて行く、現場監督もおられます。

仕事は、段取り次第という言葉がありますが、この現場監督の腕次第で、仕事はスムーズに進むし、混乱もします。

真和館で言えば、班長の仕事になります。ところが、真和館には、これまで、この班長の役割を上手に果たせる人がなかなかおられず苦勞をして来た所があります。早く、真和館の現場を引っ張ってくれる抜きんでた方が現れないかというのが、私を始め、職員のみなさんの強い願いでもあります。今一度、「段取り」という言葉を胸に刻み、みんなで協力して仕事に取り組んでみてください。

古い組織（施設）では、上が詰まり、下の人は努力をしてもなかなか報われないという話を聞くことがありますが、真和館は、ポストは空いています。段取りの仕方や組織について勉強をし、班長に挑戦していただきたいものです。

4月28日は真和館の創立記念日です。いよいよ、真和館の8年目が始まります。真和館の7年間の積み重ねの上に、さらに、今年は良い仕事を創造して行ければと思っています。みなさんの一段の努力を期待しています。

平成25年4月25日 真和館施設長 藤本和彦